

乳幼児部会 佐藤和夫、原陽一郎

<はじめに>

福岡市・福津市・古賀市・北九州市において、乳幼児メディア接触状況調査を行ったので、スマートフォン（以下スマホ）に関連する結果の一部を報告する。（乳幼児健康診査時に保護者に行ったアンケートによる調査、表1に地域別健診別有効回答数を示す）。

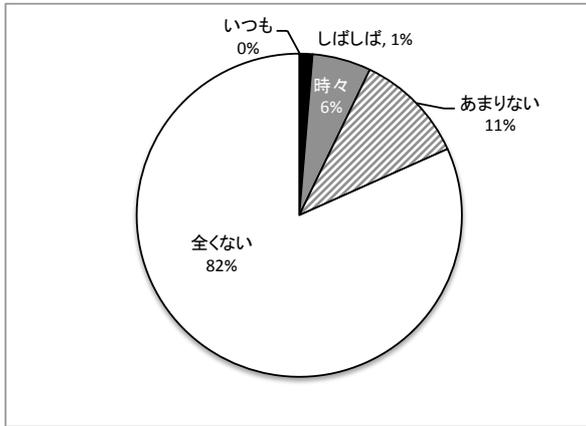
表1 地域・健診別有効回答数

地域（調査期間）	4ヶ月健診	1歳半健診	3歳健診
福岡市（9月）	1208	1095	842
福津市（10,11月）	126	107	117
古賀市（10,11月）	58	110	122
北九州市（9～11月）	452	435	445
合計	1844	1747	1526

<結果>

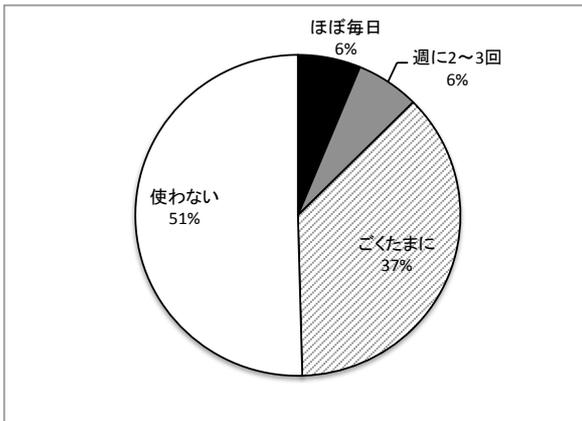
1. 子どものスマホ・タブレットの接触状況

(1) 4か月健診 (図1)



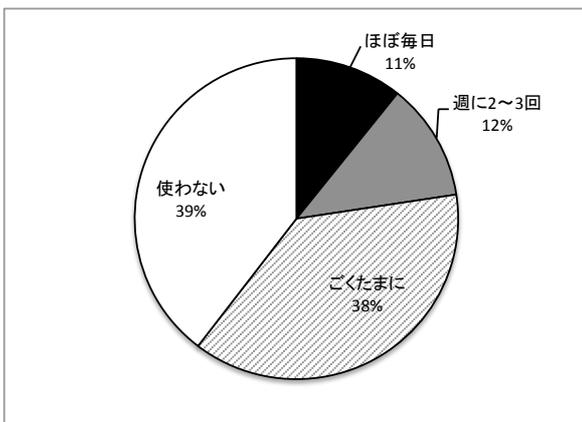
“しばしば”と“時々”を合わせると7.1%の4か月乳児が、スマホ・タブレットを使用していた。

(2) 1歳半健診 (図2)



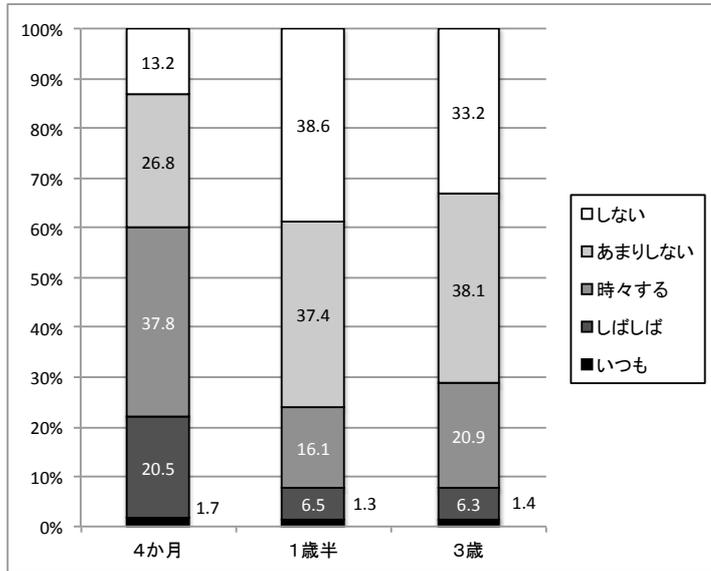
1歳半になると、6%の児が“ほぼ毎日”使用していた。

(3) 3歳健診 (図3)



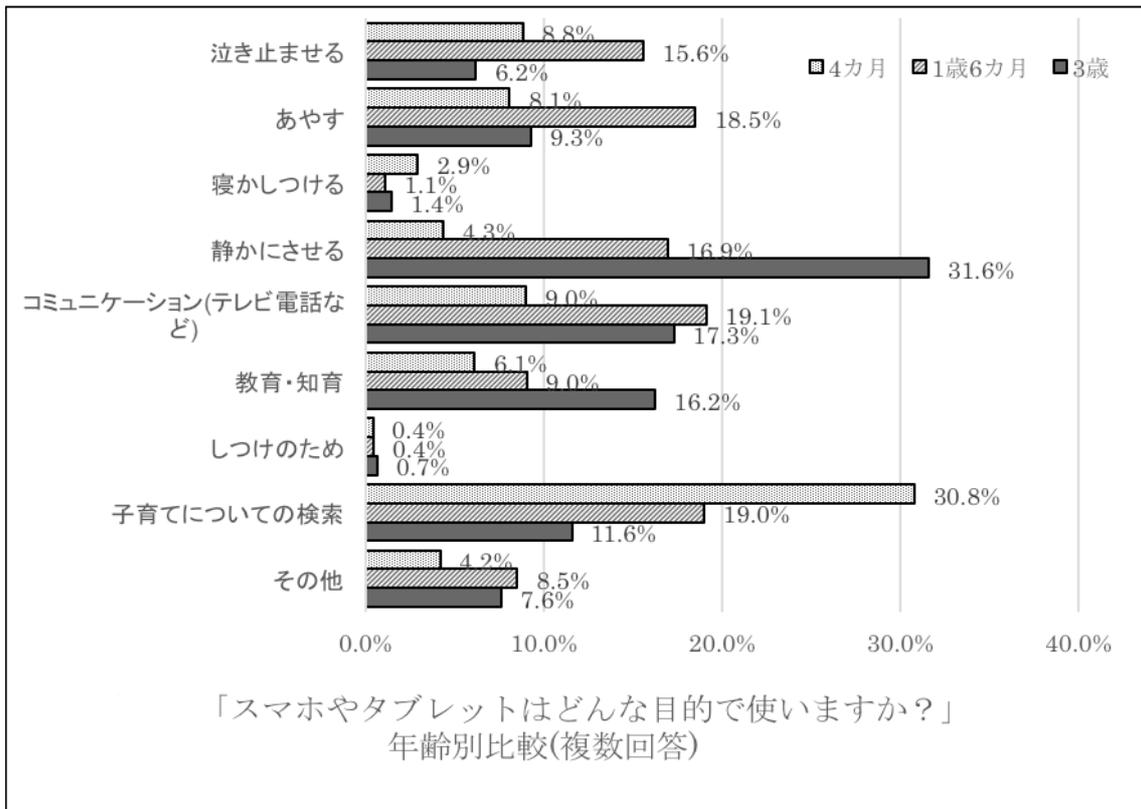
3歳児では、11%の児が“ほぼ毎日”使用していた。

2. 授乳・食事中の接触状況 (図4)



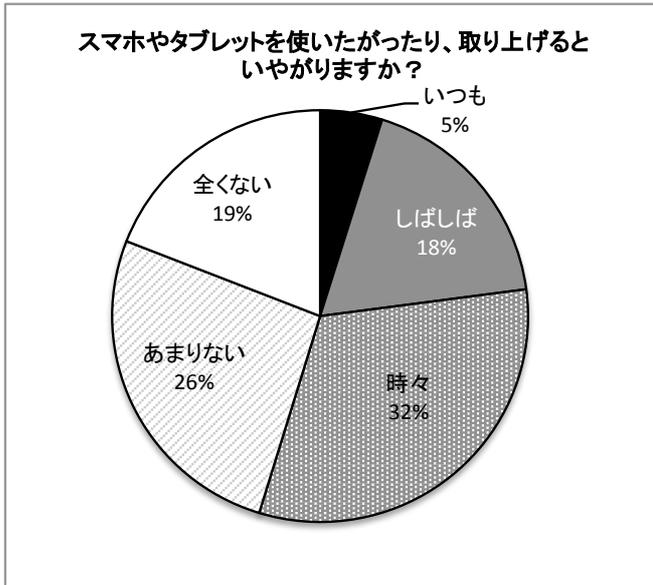
母親が食事中・授乳中にケータイ・スマホを使用する割合は、“いつも” “しばしば” “時々する” の合計では、
 4か月：60.0%
 1歳半：24.0%
 3歳：28.4%であった。

3. 子育ての中でスマホ・タブレットの使う目的 (図5)

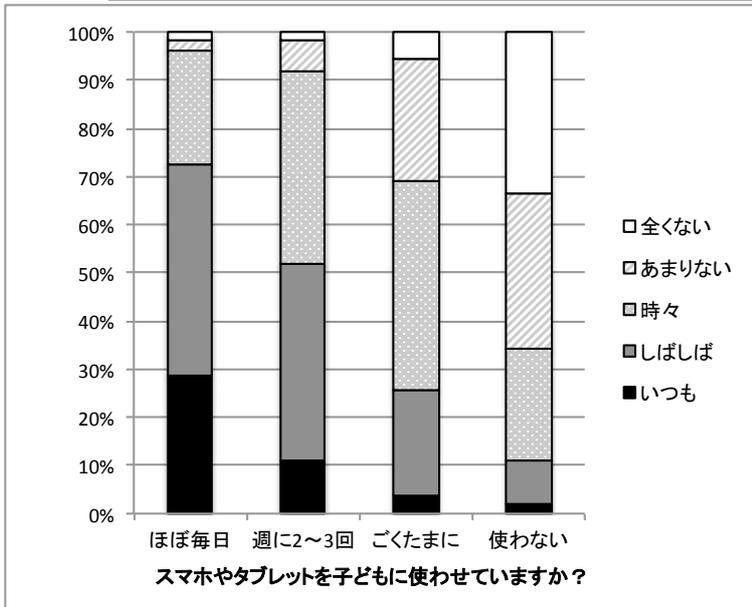


スマホやタブレットをどんな目的で使いますかという質問では、“静かにさせる”、“子育てについての検索”の二つが多く、前者は年齢が上がると多くなり(3歳で31.6%)後者は逆に若い月齢で多くなる(4か月で30.8%)という結果であった。他に“コミュニケーション”、“教育・知育”、“あやす”、“泣き止ませる”と続き、“しつけのため”と答えた保護者はごく僅かだった。

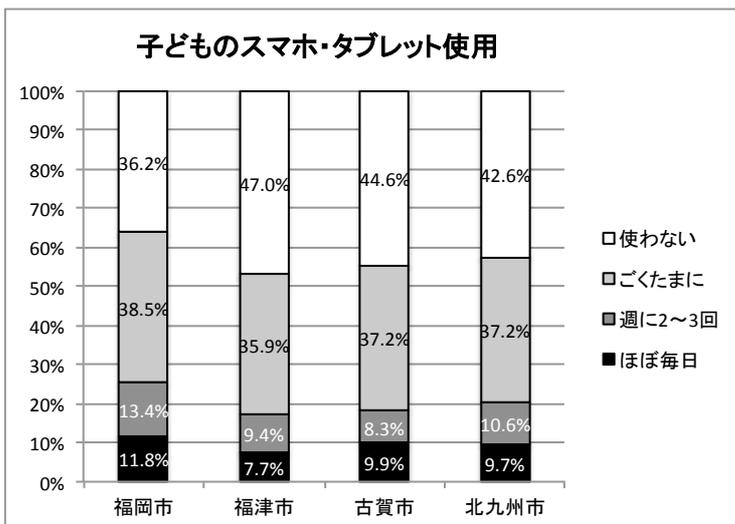
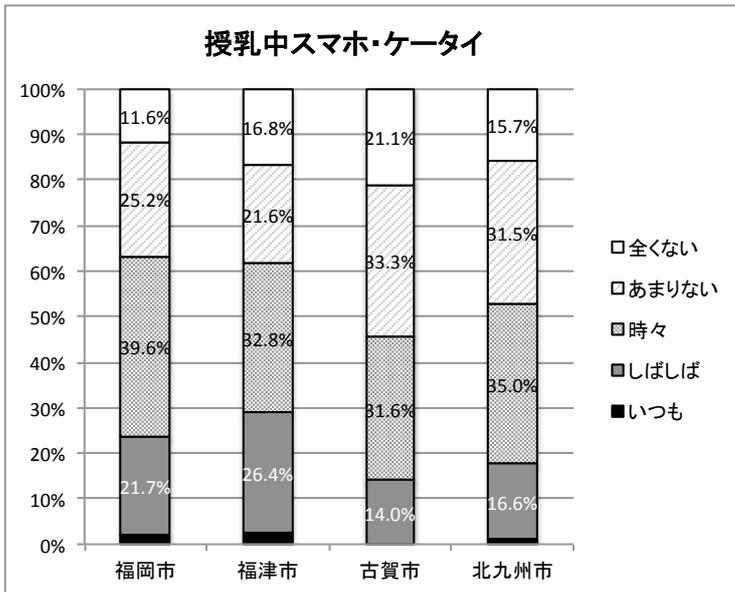
4. 依存傾向が疑われる結果 (図6, 7)



1歳半の児で、スマホ・タブレットを
使いたがったり、取り上げるといや
がると答えた割合が“いつも”“しば
しば”を合わせると23%という状況
であった。
また、その依存傾向は、使用頻度と正
の相関が認められた。(p<0.001)。



5. 地域の比較 (図8, 9)



授乳中のスマホ・ケータイ使用、3歳児のスマホ・タブレット使用に、若干の地域格差が認められた（福津市と古賀市が少なかった）。

<まとめ>

1. 乳児期・幼児期前半からのスマホ使用

少ないながらも4か月の赤ちゃんがスマホを見ていること（見せられていること）、1歳半、3歳と年齢が上がるにつれて子どもがスマホを使うようになる実態が明らかとなった。スマホが社会全体に普及し保護者が使用していることを背景に乳幼児期からのスマホ使用が進んできていることを認識する必要がある。

2. 授乳中・食事時のスマホ使用

授乳中・食事にもスマホ・ケータイを使用している状況が認められた。そして残念なことに1歳半、3歳に比べ4か月の保護者（母親）がより多く使用している現状が明らかとなった。授乳・食事時のスマホ使用は全ての電子メディア接触と強い相関があり、乳児の保護者がスマホ漬けになっていることが危惧される。

3. スマホ子育ての背景

スマホを使用する目的が多かった二つが“子育てに関する情報検索”や“子どもを静かにさせるためである”という結果は、保護者（母親）の子育てに関する知識と技術が不足しているという背景があると推察される。従って、メディアリテラシーの啓発活動だけでなく、スマホに頼らずに子育てできる保護者を育てる支援すなわち子育て自体の支援が重要であると考えられる。

4. 乳幼児期の啓発活動の効果

メディア漬け予防や子育て支援を4か月の健康診査から積極的に継続的に実践している地域（福津市・古賀市）でのスマホ使用が少なかった（授乳中のスマホ・ケータイ使用、3歳児のスマホ・タブレット使用）という結果は、乳幼児期からの啓発活動の効果を示している可能性がある。